

2013年度前期企画展

小説

から
映画へ



追手門学院大学の第1期生であり芥川賞作家でもある
宮本輝氏の小説は、数多く映画化されています。
映画のポスターやパンフレットなどを展示することによって、
宮本文学の魅力を知るための手がかりを提供します。

3月26日(火) - 9月26日(木)



I

授業期

開館時間 9:20-19:50(平日)
土曜日は17:00まで

休館日 日曜・祝日、6/28(金)

※但し、4/29(月祝)、
7/15(月祝)・28(日)は開館します。

学休期

3/26(火)~3/31(日)、
8/5(月)~9/16(月祝)

開館時間 9:20-18:00(平日)

休館日 土曜・日曜・祝日

不定期な休館日があります。
※詳しくは図書館HPでご確認いただくか、
直接図書館にお問い合わせください。

オープン
キャンパス

6/23(日)、7/14(日)、
8/3(土)・4(日)・25(日)、
9/16(月祝)

オープンキャンパス開催日は
15:00まで開館しています。

小説から映画へI

◇ 展示シネマラインナップ ◇

『泥の河』(1981年、木村プロダクション)
監督：小栗康平
キャスト：田村高廣、藤田弓子、加賀まりこ 他

『道頓堀川』(1982年、松竹)
監督：深作欣二
キャスト：松坂慶子、真田広之、山崎努 他

『螢川』(1987年、松竹)
監督：須川栄三
キャスト：三國連太郎、十朱幸代、坂詰貴之 他

『草原の椅子』(2013年、東映)
監督：成島出
キャスト：佐藤浩市、西村雅彦、吉瀬美智子 他

追手門学院大学の第1期生であり芥川賞作家でもある宮本輝氏の小説は、数多く映画化されています。とりわけ「泥の河」「螢川」「道頓堀川」の川三部作は代表作としてよく知られており、いずれも映画化されています。また、2013年に映画「草原の椅子」が公開されたことは記憶に新しいところ。映画は宮本文学の魅力を広く知らせるという意味でも、大きな役割をはたしてきたのです。

今回「企画展」小説から映画へIは川三部作を取り上げながら、映画のポスターやパンフレットなどを展示することによって、宮本文学の魅力を知るための手がかりを提供します。この企画展は宮本輝ミュージアムが新入生の皆さんのみならず、多くの方々にも宮本輝氏の世界に触れていただきたいと思つて用意した1つの入口です。「泥の河」の最も印象的なシーンの1つに触発されたシンボル展示が、皆さんをお迎えします。多数のご来場をお待ちしております。

(宮本輝ミュージアムプログラムディレクター 橋本裕之)



映画「泥の河」ポスター
©小栗康平事務所

その他映画化された作品

- 『優駿 ORACIÖN』(1988年、東宝)
- 『夢見通りの人々』(1989年、松竹)
- 『花の降る午後』(1989年、東宝)
- 『流転の海』(1990年、東宝)
- 『幻の光』(1995年、シネカノン/テレビマンユニオン)
- 『私たちが好きだった瞬間』(1997年、東映)

宮本輝ミュージアムについて

宮本輝ミュージアムは、追手門学院大学第1期生で現在も活躍する作家・宮本輝氏とその作品を紹介する場として、2005年5月追手門学院大学附属図書館内に開設しました。宮本輝氏の直筆原稿や、愛用品などを常設展示しているほか、作品をより深く感じていただけるよう、舞台背景の紹介や作品の魅力を伝える展示物などさまざまな角度から掘り下げた企画展を年2回開催しています。



スクールバス利用

● 阪急茨木市駅西口から発車



*スクールバスはどなたでもご利用いただけます。時刻表につきましてはHPでご確認ください。

阪急バス利用

● JR茨木駅イオン茨木ショッピングセンター(旧・マイカル茨木)横から発車



「JR茨木」から「追手門学院前」下車
(JR茨木駅前3番バス乗場 82・88系統)

宮本輝ミュージアム (追手門学院大学附属図書館内)

〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15 [開館時間] 図書館開館時間に準ずる。
TEL: 072-641-9639 FAX: 072-643-9786 ※詳しくはHPでご確認ください。

URL: (附属図書館) <http://www.oullib.otemon.ac.jp/>
(宮本輝ミュージアム) <http://www.oullib.otemon.ac.jp/teru/index.html>



追手門学院大学

URL: <http://www.otemon.ac.jp/>